

独立行政法人国立博物館 中長期的視点に立った調査研究の成果を展示に活かした事例

東京国立博物館

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特別展	雪舟	14.4.23～5.19	<ul style="list-style-type: none"> ・雪舟画の調査研究 ・館蔵雪舟模本の調査研究 以上、平成10～13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中に散在する雪舟画の情報を集め、それらの調査・研究にもとづいて、展示作品の取捨選択・展示構成を行った。とくに当館に大量に所蔵される狩野常信らによる模本を数年間にわたって調査・撮影し、それらの模本のなかから重要な資料を選び、展覧会に盛り込むことができた。 ・雪舟の師、李在の作品を中国からも借用し、これまで充分に紹介されていない李在の画業と雪舟の関係を実作品に即してわかりやすく明示した。 ・山本英男(京都国立博物館)、救仁郷秀明(東京国立博物館)という雪舟研究の気鋭の研究者を中心として実施したことにより、出品作品の質量がこれまでにないほど高水準なものとなった。 	毎日新聞社、TBS
14	特別展	韓国の名宝	14.6.11～7.28	科学研究費補助金「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究－韓国所在の彫刻・工芸作品を中心に－」平成11～13年度 研究代表者 金子啓明	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国中央博物館との連携により実施してきた韓国各地の博物館等所蔵の金属工芸、染織、陶磁器、考古遺物の調査研究による新知見や成果を踏まえ、展覧会の作品選定等を行い、成果を図録等にも反映した。 ・韓国国立中央博物館との国際学術交流が優品の出品等に大きな力となった。 	NHK、NHKプロモーション
14	特別展	書の巨人 西川寧	14.7.30～8.25	館蔵品及び周辺文化財の継続的調査研究	東京国立博物館の所蔵品を中心としたもので、日常的な作品の調査研究及び書道史研究を踏まえ、当該作家の作品が現代書壇に与えてきた意義を考慮して、年代別の作品陳列ではなく、各書体ごとに陳列するという、極めて斬新な構成として反映した展示構成をおこなった。	読売新聞社
14	特別展	江戸蒔絵－光悦・光琳・羊遊斎－	14.8.20～10.6	科学研究費補助金調査研究 ・「近世漆工芸基礎資料の研究－特に大名婚礼調度を中心として－」昭和55・56年度 研究代表者 荒川浩和 ・「近世漆工芸基礎資料の研究－特に大名婚礼調度を中心として－」昭和60・61年度 研究代表者 荒川浩和 ・「近世漆工芸基礎資料の研究－近世在銘遺品を中心として－」平成7・8年度 研究代表者 小松大秀 ・「近世漆工芸基礎資料の研究－江戸時代在銘遺品を中心として－」平成10・11年度 研究代表者 小松大秀	<ul style="list-style-type: none"> ・日本漆工史研究の第一線に立つ荒川浩和・小松大秀ら、東京国立博物館研究員を中心に実施してきた左記の研究に基き、従来、研究が手薄であった近世漆工の分野を本格的に取り上げた初の展覧会であった。 ・江戸時代の蒔絵作品に焦点を絞り、その多彩な表現、技法、そこに込められた江戸時代の人々の美意識といった諸点を考察し、江戸の文化的繁栄に貢献した近世漆芸の特質を明らかにすることができた。 	自主企画展

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特別展	シルクロード 絹と黄金の道	14.8.20～10.6	展覧会のための事前調査 ・中国新疆ウイグル自治区所在の博物館・遺跡等、約20ヶ所	・現地の関連機関や遺跡等を総合的に調査することにより、従来中国以外ではほとんど紹介されていなかった資料を多数組み込むことができた。 ・最新の発掘成果等、学術的に高い内容を盛り込み、シルクロード関連の展覧会としては、絵画、書跡、彫刻、金工、陶磁、染織、考古遺物といったこれまで類をみないほど多彩な内容の作品を展観することができた。 ・シルクロードに対する概念として、絹の道という以外に、新たに「黄金の道」という観点を提示した。	日中友好協会、中国新疆ウイグル自治区文物局、NHK、NHKプロモーション
14	特別展	インド・マトゥラー彫刻展 パキスタン・ガンダーラ彫刻展	14.10.29～12.15	科学研究費補助金調査研究 ・「ガンダーラ地方における古代都市と交易路に関する考古学的・美術史学的研究」国際学術研究 平成4～5年度 ・「パキスタン・ハザーラ地区における古代都市と交易路に関する考古学的・美術史学的研究」国際学術研究 平成6～9年度 ・「ガンダーラ仏教寺院の伽藍配置と出土遺物に関する基礎的研究」国際学術研究 平成10～11年度 ・「文化財データベース構築のための仏教文化の源流に関する研究」特別研究促進費 平成12年度	東京国立博物館が長年にわたって実施した現地での調査研究の成果に基いて展覧会を立案、構成した。とくに、東京国立博物館調査隊がパキスタンにおける発掘調査の際に発見した仏教彫刻等は、これまで知られていなかった新資料として世界的な注目を集めたもので、その代表作品をまとめて展示し、この方面の研究や鑑賞に新たな資料を提示した。	NHK、NHKプロモーション
14	特別展	大日蓮展	15.1.15～2.23	展覧会のための事前調査 ・日本全国の関連寺院、博物館等、約120ヶ所	従来総合的な調査がほとんどなされていなかった日蓮宗関係寺院等の悉皆的な調査により、長谷川等伯の作品を新たに発見するなど、多大な成果をあげ、それをもとに展覧会を構成した。その結果、日蓮宗の文化に関する展覧会としては内容、規模とも画期的なものとなった。	日蓮聖人門下連合会、産経新聞社
14	特別展	西本願寺展	15.3.25～5.5	・館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究 ・展覧会のための事前調査	作品選定に際して、文化財の保存と公開という相反するともいえる問題があった。展覧会の大きな目玉の一つである「本願寺本三十六人家集」は当初5冊の出品しか許可されなかったが、美術史ごとに日本書道史研究の立場から、その全作品の公開の重要性を説き、全作品の出品が許可され、展覧会の成功にもつながった。	浄土真宗本願寺派、NHK、NHKプロモーション
14	特集陳列	江戸と桃山の陶磁	14.1.8～4.7 14.4.9～7.7 14.7.9～10.6 14.10.8～15.1.13	「近世陶磁史の研究」	日本陶磁史の中で、桃山茶陶と言われる安土・桃山時代から江戸時代にかけての茶陶と、江戸時代では伊万里と京焼とが時代を代表する焼物として作られていた。この二つの時代に焦点をあて、それぞれ内容を作品によって紹介した。近世陶磁研究の第一人者伊藤嘉章が担当。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	医学	14.10.16～12.1	「日本医学関係資料の研究」	日本の医療制度は中国の模倣にはじまり、その影響を受けながら、大きく発展した。隋・唐医学の集大成である国宝「医心方」、江戸幕府の医学館に伝わった代表的な医学書や、銅人形などをとりあげ、日本医学が、東西の医学をどのように継承、発展させたかを具体的に示した。	
14	特集陳列	植村和堂氏寄贈品	14.10.16～12.8	寄託品の調査研究	長年にわたる植村氏よりの写経・古筆・和様・唐様の寄託品の調査研究をもとに、今度の寄贈品に関して系統的な陳列を行った。あわせて、植村氏より寄贈のコレクションのカタログ作成を行った。	
14	特集陳列	徳川頼貞氏寄贈品(2)縄文土器・土製品	14.12.10～15.2.9	徳川頼貞氏寄贈品の調査・研究	本館に所蔵されているもののなかで、徳川頼貞氏の寄贈品はさまざまな分野にまたがる一大コレクションである。「銅駄坊陳列館」に収蔵されていた縄文土器・土製品についても膨大な数があり、土製品に関しては、『東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(土偶・土製品)』として研究の成果が公になっている。この成果および縄文土器をあわせ展示を構成した。	
14	特集陳列	染織にみる吉祥模様	14.12.25～15.2.23	「日本染織における吉祥模様についての研究」	東京国立博物館に所蔵される染織品は、江戸時代の服飾が中心である。この時期に日本独自の発展を遂げた染織技術によって、さまざまな模様が服飾を彩ることとなるが、その多くは吉祥模様である。日頃の調査研究を元に、中国の伝統を踏まえながら日本らしい解釈と造形を生んできた吉祥模様を、毎年正月に展示公開した。	
14	特集陳列	茶の湯	14.12.3～15.1.19	「江戸の生活と文化に関する研究」	茶の湯は、日本独特の洗練された生活文化として発達した。茶の湯のためにつくられ、古くは座敷、囲、数寄屋などと呼ばれた茶室に注目し、茶室起絵図と関連資料によって、書院の茶から珠光、紹鷗、利休という草庵の茶の成立までの流れを明らかにした。	
14	特集陳列	林宗毅コレクションの中国書画	14.3.26～5.6	東洋美術史研究	昭和58年、平成2年、平成13年の3次にわたって寄贈された林宗毅氏の定静堂コレクションを調査研究した成果として、その代表的作品を公開した寄贈者顕彰の特集展示。	
14	特集陳列	曹源寺の十二神将	14.4.16～15.4.6	浅見龍介「曹源寺蔵 十二神将像」『国華』1284	横須賀所在の曹源寺には、鎌倉時代の代表的仏師である運慶の作風に近似した十二神将像が残されているが、これまであまり注目されることがなかった。陳列担当者浅見はそれについての研究を実施し、東国における慶派仏師の作であることを明らかにした。展示解説では、当館が保管する鎌倉時代彫刻との比較を行うなどして、その点を平易に説いた。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	旅と街道－東海道編－	14.4.9～5.26	「江戸幕府旧蔵資料の研究」	道中奉行所が寛政12年(1800)に製作した「五街道其外分間延絵図」(重文)、元禄3年(1690)に菱川師宣らが描いた「東海道置駅図」、全国の主要街道を描いた「街道図」や、名所案内、旅物語など、当時の旅の様子がうかがえる資料を紹介した。	
14	特集陳列	アイヌの宗教遺品	14.4.9～5.28	アイヌ民族資料の調査研究	東博所蔵のアイヌ民族資料のうち、アイヌの人びとの精神世界に着目して展示をおこなった。アイヌの人びとのさまざまな儀礼場面で使用された資料について、調査・研究の成果を示すとともに、使用された場面をパネルをもちいて分かりやすく展示した。アイヌ研究の第一人者佐々木が担当した。	
14	特集陳列	青山杉雨コレクションの中国書跡	14.5.14～7.7	中国明清書法の研究	青山コレクションは、平成5年7月に寄贈となり、同年11月、寄贈品図録を刊行した。本展はその後の調査をふまえ、元・明・清時代をいろどる優品の数々を選び、帖学派から碑学派へと書の流れが転換する様を理解しやすいように陳列した。	
14	特集陳列	朝鮮通信使	14.5.28～7.21	「日韓交流史の研究」	江戸時代、幕府の慶事や将軍の代替わりの際に来訪した朝鮮通信使は、計12回に及んだ。正使以下、一流の文化人を含む大使節団で、幕府は威信をかけて最高の対応を行った。宗家文書などの新出資料を交えながら、その歴史と意義を明らかにした。	
14	特集陳列	琉球風俗画と民族資料	14.5.28～7.7	琉球資料の調査研究	東博所蔵の琉球民俗資料のうち、装身具などの物質資料が琉球風俗画のなかでどのように描かれていたのか調査・研究をおこない、使用方法を明示するとともにその成果を展示した。	
14	特集陳列	備中長船の名刀	14.5.8～7.7	「備前長船の調査研究」	通常の保管・研究作業のなかで鎌倉時代中期に興った備前長船派の作品に絞って検討をおこない、同派の鎌倉から室町時代に至る作品13口を系統的に陳列して特色を明らかにした。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	広開土王碑	14.6.10～8.4	広開土王碑の研究	広開土王碑拓本の寄贈を受けたことを契機に、当館収蔵の墨水廓填本(酒匂本)および臨写本との比較研究を進めたところ、当館収蔵のこの三つの資料が広開土王碑の史料価値を考えるうえで重要資料であることが認識されたので、この三資料を一堂に会した展覧を実施し、それぞれの意義を明らかにした。	
14	特集陳列	釈奠	14.7.23～9.1	「江戸幕府旧蔵資料の研究」	釈奠は、食物や酒を捧げ、孔子や弟子たちを祭る行事。江戸時代には湯島聖堂、藩校などで行われた。聖堂および釈奠の沿革を中心に、寛政年間、老中松平定信の改革の内容を具体的に示す旧幕府聖堂釈奠図や、永正7年の釈奠での三条西実隆自筆懐紙などを展示した。	
14	特集陳列	平成13年度新収品Ⅱ「大川コレクションの古金銀貨」	14.7.9～9.1	国立歴史民俗学博物館機関研究「考古学資料の情報集成的研究」研究代表者 村木二郎	標記研究の研究分担者として当館の日本金工研究の加島が加わり、経塚出土の金工品に関するデータ収集と調査研究を行ない、大川コレクションの古金銀貨の貨幣としての魅力をわが国の貨幣史の中でわかりやすく解説し展示した。	
14	特集陳列	帝室技芸員－工芸－	14.7.9～9.29	「近代工芸史についての研究」	東博所蔵の帝室技芸員の作品及び、帝室技芸員選出等の文献資料がある。これらの作品・資料を使いこの帝室技芸員について調査・研究を行ってきた。その成果をもとに、帝室技芸員の作品を従来展示されることの少なかった作品も含めて系統的に公開し、その制度も持つ意味を明らかにした。	
14	特集陳列	アイヌの狩猟具	14.7.9～9.8	アイヌ民族資料の調査研究	アイヌ民族の狩猟具について主に日常生活で使用されたと考えられる道具をもとに、その使用方法について解説をおこなった。アイヌ研究の第一人者佐々木が担当した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	東京国立博物館コレクションの保存と修理—平成13年度修理作品	14.9.10～9.29	沢田むつ代「法隆寺献納宝物 蜀江錦褥残欠と褥裏裂 平成十三・十四年度の修理を終えて」(『MUSEUM』588号、2004年2月)、『ミュージアムサイエンス2002 東京国立博物館コレクションの『平成13年度 東京国立博物館文化財修理報告Ⅲ』(東京国立博物館、2003年)	東博行っている100件あまりの本格修理(解体を含むもの)から4分の1ほどを選び、修理の方針、方法などの詳細な解説をつけて展示、公開した。博物館の活動のひとつとしての収蔵品の保存修復についてスポットをあて、どのような理念のもとで修理を行っているかなどを紹介した。	
14	特集陳列	博物図譜の世界	14.9.3～10.14	東京国立博物館所蔵博物図譜データベース(科学研究費補助金(研究成果公開促進費)研究代表者 高橋祐次)	享保年間(1716～36)、将軍徳川吉宗による国内産物の奨励を契機とする博物学の流行にともなって、多くの図譜や写生図が制作された。本館が草創期に積極的に収集した江戸時代の博物学資料から、当時の描き手が何を伝えようとしたかをさぐった。	
14	特集陳列	京焼きの技が広がった	14.9.3～11.24	「京焼の研究」	江戸後期の京焼は最も多様な技術を擁していた。その中で多くの陶工が地方に招かれ、そこで技術伝授を行っている。当館には江戸後期の京焼とともに、江戸後期地方窯の作品を多く収蔵しており、それらをもとに京焼と地方窯との技術交流を作品から検証し、これを展示によって明らかにした。近世陶磁研究の第一人者伊藤嘉章が担当。前記、江戸と桃山の陶磁とあわせて、17年度の特展「江戸の焼物」に繋がる。	
14	特集陳列	キリシタン—その信仰と証—	15.1.21～3.16	「キリシタン関係遺品の研究」	天文18年(1549)に伝来したキリスト教は、織田信長のもとで興隆期を迎えたが、豊臣秀吉の禁教政策以降、明治時代までその信仰は困難を極めた。キリスト教の布教とその受容の歴史を、幕府によって没収されたキリシタン関係遺品や、『天正遣欧使節記』などによって紹介した。	
14	特集陳列	蝦夷地の冬	15.1.21～3.2	アイヌ民族資料の調査研究	アイヌ民族の衣服のなかでも、冬季における防寒具、移動・運搬具などをまとめて展示し、日常生活での使用方法の解説をおこなった。アイヌ研究の第一人者佐々木が担当した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	蘭亭叙	15.1.28～3.30	王羲之書法の研究	王羲之の生没年は定説をみないが、昨今は303～361説が支持されている。こうした趨勢を考慮して、生誕1700年にあたる2003年に、王羲之の代表作である蘭亭叙の諸本を取り上げるとともに、後世に与えた影響を、明～清の作品に求め陳列し、あわせて蘭亭偽作説を紹介した。中国書道史の気鋭の研究者富田が担当した。	
14	特集陳列	第一回内国勸業博覧会	15.1.7～3.23	「近代工芸史についての研究」	第一回内国勸業博覧会は現在の東博の敷地を会場として行われ、その際の出品作品も多く収蔵されている。これらの調査・研究を行ってきた。その成果を展覧会として公開し、それまで作品としてしっかり認識されてこなかった第一回内国勸業博覧会を公開した。これらの博覧会の特集陳列の成果が17年度の特別展「万国博覧会の美術」に繋がる。	
14	特集陳列	高野コレクション・浅井忠の水彩画	15.2.18～3.30	「近代洋画に関する研究-浅井忠」	昭和59年(1984)に寄贈された高野時次氏収集の浅井忠作品73点の中核をなす、滞欧作の水彩画の内18点(浅井が4度も訪れたパリ郊外グレー村の風景9点を含む)を展示。浅井の画業の中で、フランス留学の意味を問うた。	
14	特集陳列	お雛様と人形	15.2.25～3.30	「日本人形文化研究」	歴史資料として収蔵され、近年まで展示公開されることのなかった、東京国立博物館の人形コレクションの中には、江戸時代後期に流行した様式の雛人形や京人形の優品がある。毎年桃の節句にあわせてそれらを一般に展示公開し、伝統的な日本の人形文化を知る機会とする。	
14	特集陳列	徳川将軍家の栄華	15.3.18～4.20	「江戸幕府旧蔵資料の研究」	江戸幕府は、対朝廷政策や、貿易の統制、武家諸法度などによって将軍権力を強化し、その後、幕政改革などを行ったが、諸外国との外交、貿易において権威を大きく失墜させ、皇女和宮の将軍家茂への降嫁を画策した。こうした徳川将軍家の栄華の跡を辿る展示を行った。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	民族資料のコレクションヒストリー—銅駄坊1	15.3.4~4.13	アイヌ民族資料の調査研究	本館に所蔵されているもののなかで、徳川頼貞氏の寄贈品はさまざまな分野にまたがる一大コレクションである。「銅駄坊陳列館」に収蔵されていたアイヌ民族資料のコレクションも膨大な数があり、その調査・研究の成果は『東京国立博物館図版目録 アイヌ民族資料篇』として公になっている。その成果をうけ、アイヌ民族の祈りに関する資料を集め展示を構成した。	
15	特別展	鎌倉-禅の源流-	15.6.3~7.13	東国における禅宗文化の研究 ・鎌倉地方における観音半跏像の成立と展開 『鹿島美術財団年報』8号 平成3年 ・鎌倉地方における観音半跏像の成立と展開 美術史学会全国大会 平成4年 ・白雲庵の宝冠釈迦如来像をめぐって 『金沢文庫研究』293号 平成6年9月 ・浄智寺韋駄天立像、東慶寺水月観音像ほか解説 『禅宗寺院と庭園』(日本美術全集11)平成5年6月	・鎌倉地方の禅宗寺院に関する先駆的な研究を行ってきた浅見龍介研究員を中心に、鎌倉の特色ある禅文化に注目して企画・立案した。 ・鎌倉地方の禅宗文化が京都のそれに先行し、かつ独特のものであることを明らかにした。	日本経済新聞社
15	特別展	国宝 大徳寺聚光院の襖絵	15.10.31~12.14	・展覧会のための事前調査	・事前調査により、未紹介の資料を調査し検討することで、その歴史的意義を解明し、はじめて展示公開した。 ・美術史上の重要問題である聚光院の創建時期に関する研究を会場構成ならびに図録で提示した。 ・聚光院本堂の建築との国宝障壁画(狩野永徳等筆)の現地調査を踏まえて、展覧会場に本堂内部を復元的に再構成した。	大徳寺聚光院、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社
15	特別展	江戸開府400年記念「伊能忠敬と日本図」	15.10.31~12.14	館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・館蔵品の事前調査により、これまで作者が不明であった日本図が伊能忠敬のきわめて貴重な作であることを確認した。このことが新聞紙上等で大々的に取り上げられるなど、大きな話題となり注目された。 ・この日本図も加えて展示することにより、伊能忠敬と関連日本図をはじめて総合的に紹介することができた。	自主企画展

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特別展	亀山法皇700年御忌記念 南禅寺	16.1.20～2.29	展覧会のための事前調査 ・南禅寺本坊及び塔頭10数ヶ寺の悉皆調査 ・南禅寺関連の社寺・個人所蔵家の所蔵作品の調査	・南禅寺の本坊および塔頭に所蔵される作品に対し、各専門分野の担当研究員による悉皆調査を行い、南禅寺の歴史と美術を語るうえで欠かせぬ作品を選択し、展覧会の構成に活かした。 ・調査により、肖像画・書跡・工芸の分野で新発見の作品が多数あり、これらを展示することにより、従来以上の深まりを持って南禅寺が理解されるようになった。 ・従前なかった南禅寺所蔵の禅僧肖像画研究に大きな成果があり、これを図録に反映した。 ・これまで注目されてこなかった三門に安置された彫刻類を調査し、その系統だった研究を行い、図録・展示に反映した。	朝日新聞社
15	特別公開	法隆寺国宝 夢違観音	16.3.2～16.4.11	科学研究費補助金「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究－韓国所在の彫刻・工芸作品を中心に－」平成11～13年度研究代表者 金子啓明	東アジア的な視点から行ってきた古代日本文化に関する研究成果にもとづき、日本古代彫刻の傑作の一つである夢違観音像を中心に法隆寺献納宝物の小金銅仏を合わせて展示することで、日本古代文化の特色と意義を提示した。	法隆寺
15	海外展	日本の美 日本の心	15.8.29～10.26	館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	ドイツを中心とするヨーロッパの人々に日本文化を紹介する際、収蔵品の中からどのような作品を選定し、どのような構成にすべきかを充分検討し、京都・茶の湯・琳派・能楽などに分類した斬新な構成とした。	会場:ホﾝ ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ホﾝ ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール
15	巡回展	琉球・沖縄へのまなざし	15.12.13～16.1.18	『東京国立博物館図版目録 琉球資料編』の刊行 平成13～14年	これまで十分な整理が行われていなかった館蔵の琉球資料について、この分野の第一人者である佐々木利和研究員を中心に、体系的な整理と調査研究を行い、図版目録として刊行した。その成果をもとに展覧会を企画・構成した。	浦添市博物館
15	特集陳列	江戸と桃山の陶磁	14.1.8～4.7 14.4.9～7.7 14.7.9～10.6 14.10.8～15.1.13	「近世陶磁史の研究」	日本陶磁史の中で、桃山茶陶と言われる安土・桃山時代から江戸時代にかけての茶陶と、江戸時代では伊万里と京焼とが時代を代表する焼物として作られていた。この二つの時代に焦点をあて、それぞれ内容を作品によって紹介した。	
15	特集陳列	中国書画精華	15.10.7～11.30	中国絵画・書跡の研究	日本に伝来された中国書画の中には、本国ではすでに見ることのできない貴重な優品が少なくない。本展では国内外で評価の定まった唐・宋・元の書画を中心に構成し、中国書画史に重要な位置を占める優品の伝来や特徴について、先行研究をふまえて分かりやすく紹介した。中国書画史の第一人者湊・富田が担当。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	仏像の装い	15.10.7～12.21	平安・鎌倉時代彫刻作品の賦彩に関する基礎的研究(基盤研究(B)14310033、研究代表者丸山士郎)	仏像の表面(主に着衣部)には、顔料や金箔などによってさまざまな装飾(彩色)が施されるが、その形状・技法は主に時代によって異なる。仏像の彩色についての研究を行ってきた。この陳列ではその成果を活かしつつ、仏像の彩色を中心に、さまざまな仏像の装いを提示した。	
15	特集陳列	内藤堯寶コレクションの東洋工芸	15.10.7～12.28	館蔵品の調査研究	昭和46年(1971)に受贈した内藤堯寶コレクションの中国・朝鮮の陶磁器、漆工、金工作品のうち30点を体系的に展示して紹介し、コレクションの性格を明らかにした。	
15	特集陳列	江戸の博物学	15.11.5～12.14	東京国立博物館所蔵博物図譜データベース(科学研究費補助金(研究成果公開促進費)研究代表者 高橋裕次)	日本の博物学は、中国の本草学そのものであったが、18世紀以降、ドドネウス『草木誌』などの大きな影響を受けた。享保年間(1716～35)頃から物産学が盛んになり、西洋博物学が本格的に紹介されると、日本にも優れた科学的研究が展開した。こうした江戸の博物学の変遷を辿りながら、さまざまなジャンルにわたる博物図を紹介した。	
15	特集陳列	寄贈品でつづる 考古コレクションの形成と先人の足跡	15.11.5～12.14	日本考古分野における寄贈品の調査・研究	本館の日本考古遺物は、戦前から戦後まで多数の寄贈品からなりたっている。膨大なコレクションがあり、それらの基礎的な調査・研究をおこない成果を展示した。	
15	特集陳列	江戸の年中行事	15.12.16～16.1.25	「江戸の生活と文化に関する研究」	私たちの暮らしや社会には、実に多くの年中行事があり、時代や地域により移り変わってきた。公家や武家の節会のいくつかは、現在でも年中行事として行われているが、その歴史的な性格などは忘れ去られようとしている。伝統的な年中行事をはじめ、人々の生活とも深く結びついた行事の様相を新しい視点でとらえ直した。	
15	特集陳列	染織にみる吉祥模様	15.12.23～16.2.15	「日本染織における吉祥模様についての研究」	東京国立博物館に所蔵される染織品は、江戸時代の服飾が中心である。この時期に日本独自の発展を遂げた染織技術によって、さまざまな模様が服飾を彩ることとなるが、その多くは吉祥模様である。日頃の調査研究を元に、中国の伝統を踏まえながら日本らしい解釈と造形を生んできた吉祥模様を、毎年正月に展示公開する。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	神像と狛犬	15.12.23～16.4.4	神像彫刻に関する基礎的研究(若手研究(B)14710034、研究代表者丸山士郎)	日本の古代中世の彫刻の大部分は仏教彫刻で占められるが、日本古来の神の彫刻である神像も少なからず残っている。神像彫刻についてのこれまでの研究は十分ではなく、陳列担当者は科学研究費等も受けて、近年その研究を重点的に実施している。それによって得られた製作に関する年代観、仏教彫刻との表現の相違といった作風観を展示解説に反映させた。	
15	特集陳列	江戸城再現	15.4.22～6.1	「江戸幕府旧蔵資料の研究」	江戸城は、たび重なる火災で、頻繁に修築工事が行われた。かつて江戸城本丸・西丸などの御殿を彩った障壁画の下絵や、その制作の過程が知られる晴川院自筆の「公用日記」、建物取り壊し直前の明治4年に作成された「旧江戸城写真帖」(重文)などから、失われた江戸城の再現を試みた。	
15	特集陳列	ティファニーからの贈りもの	15.4.8～6.1	「ルイス・コムフォート・ティファニー寄贈のガラス寄贈の経緯とその意味を中心に」『MUSEUM』第562号 平成11年10月15日 東京国立博物館	当館に収蔵されているルイス・カムフォート・ティファニー寄贈のガラスについて、その寄贈の経緯を調査・研究を行った。その成果を先に『MUSEUM』で発表したが、これを展覧会として公開し、明治期における国際交流のあり方、博物館の役割の展開について明らかにした。	
15	特集陳列	川端家寄贈の毘沙門天立像	15.6.7～7.13	平安・鎌倉時代彫刻作品の賦彩に関する基礎的研究(基盤研究(B)14310033、研究代表者丸山士郎)	日本画家として著名な川端龍子画伯寄贈の毘沙門天像は、像内納入品から造像年を知ることができること、そして表面に施された彩色の精緻なことで日本彫刻史上極めて重要な作品である。本陳列では、多数の彩色の写真も提示し、像の魅力を伝えた。	
15	特集陳列	江戸の料理	15.7.1～8.11	「江戸の生活と文化に関する研究」	儀式の料理では、包丁のさばき方や盛りつけが重視された。やがて宮廷や幕府専属の料理流派が登場し、流派ごとに秘伝が作られ、茶の湯の発達にともない懐石料理が生まれた。江戸時代、様々な料理書が出版され、各地に料理屋が出現し、料理を遊びとして楽しむ風潮がおこった。料理書を通して、江戸の料理の歴史を紹介した。	
15	特集陳列	江戸を掘る	15.7.19～9.28	館蔵品江戸時代考古資料の調査・研究	当館には江戸時代の考古遺物が少ないながら収蔵されている。これらとともに、平成館・法隆寺館の建設に先立つ発掘調査によって出土した考古遺物に関する調査記録を公開展示した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	広開土王碑	15.7.23～8.31	広開土王碑の研究	展示品の内容は前年度の展観とほぼ同じであるが、その後の研究成果に基づき、解説パネルや配布資料、講演に、武田幸男、浜田耕作氏らの説を取り入れて辛卯年条の記載が必ずしも事実ではなかった可能性を紹介したり、当館に臨写本を売却した岸田吟香の生涯に関する調査内容を加えるなどして、解説の一層の充実を図った。	
15	特集陳列	江戸の納涼	15.8.12～9.21	「江戸の生活と文化に関する研究」	年度のテーマである江戸についての館蔵品の調査研究に基づくものである。炎暑の候に暑さを避けるため、古くから人々は樹木の陰や水辺に涼を求めた。江戸の庶民は橋のたもとで川風に涼をもとめ、付近には店、見世物小屋、寄席などが繁盛した。また、花火や金魚の飼育、団扇、怪談話など、夏の風物詩として欠かせないものに関連した資料を集めて展示を行った。	
15	特集陳列	市河米庵旧蔵の中国書画	15.9.2～10.5	東洋美術史ならびに米庵コレクションの研究	米庵のコレクションは、米庵没後に散逸したが、ご子孫が再収集につとめ、東博に寄贈となった。一方、米庵のコレクションは、米庵自身が上梓した図録によってその全貌を窺うことができる。本展では、図録に収録される作例を館蔵品から選び、幕末における中国書画のコレクションの特質を分かりやすく紹介した。	
15	特集陳列	江戸の雛形	15.9.23～11.3	「江戸の生活と文化に関する研究」	江戸時代に多数出版されたデザイン・ブックは雛形とよばれ、華やかな衣装が流行するきっかけとなり、建物の寸法や意匠を示した大工雛形は、建物技術の普及にも大きな役割を果たした。室町時代に盛んであった犬追物の構成を再現したミニチュアもある。こうした多彩で楽しい雛形の世界を紹介した。	
15	特集陳列	第二回内国勸業博覧会－工芸－	15.9.23～12.24	「近代工芸史についての研究」	第二回内国勸業博覧会は旧本館が博覧会の美術館として使われるなど、東博との関係が深い博覧会である。この博覧会について、さらに当館に収蔵されている出品作品の調査・研究を行ってきた。その成果を展覧会として公開し、それまであまり知られていなかった第二回内国勸業博覧会の工芸をまとめて展観することで、当時の工芸の状況を明らかにした。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	東京国立博物館コレクションの保存と修理―	15.9.9～10.19	沢田むつ代「法隆寺献納宝物 蜀江錦襦袢残欠と襦袢裏裂 平成十三・十四年度の修理を終えて」、土屋裕子「東京国立博物館所蔵<国枝コレクション>国沢新九郎筆「海景」と加地為也筆「海景」について保存修理と来歴」(『MUSEUM』588号、2004年2月)、『ミュージアムサイエンス2003 東京国立博物館コレクションの『平成14年度 東京国立博物館文化財修理報告Ⅲ』(東京国立博物館、2004年)	東博が行っている100件あまりの本格修理(解体を含むもの)から4分の1ほどを選び、修理の方針、方法などの詳細な解説をつけて展示、公開した。博物館の活動のひとつとしての収蔵品の保存修復についてスポットをあて、どのような理念のもとで修理を行っているかなどを紹介した。	
15	特集陳列	江戸の作法	16.1.27～3.7	「江戸の生活と文化に関する研究」	作法は、人の社会生活における多くの慣習やしきたりのうち、とくに立居振舞、言語、身なりなどに関して用いられている。仏教でも「日常の行為や仏事の儀式などで守るべき礼法」とみえており、古くから重んじられていた。現代では作法に対する認識が大きく変化しているが、これを、長い間に培われた人間の知恵として見直すことを試みた。	
15	特集陳列	弥生時代の人物表現と絵画	16.1.6～2.22	館蔵品弥生時代資料の調査・研究	館蔵品のうち、弥生時代の精神世界を読み解く上で極めて重要な人物表現と絵画について調査・研究をおこない、その成果で展示構成を行い、平成15年度考古相互貸借事業で借用した資料も展示した。	
15	特集陳列	徳川宗敬氏寄贈品Ⅲ 絵本	16.1.6～2.29	「江戸の生活と文化に関する研究」	江戸時代に発達した「絵本」は、京都を中心に出版された仮名まじり文の「仮名草子」、元禄期の風俗・人情を描いた「浮世草子」にはじまる。江戸時代後期の「黄表紙」は、天明年間(1781-89)に全盛期を迎えるが、幕府の取締り強化によって、「合巻」などと同様に時代の波に翻弄された。これらの作品から、江戸の出版文化を概観した。	
15	特集陳列	お雛さまとお人形	16.2.24～3.28	「日本人形文化研究」	歴史資料として収蔵され、近年まで展示公開されることのなかった、東京国立博物館の人形コレクションの中には、江戸時代後期に流行した様式の雛人形や京人形の優品がある。毎年桃の節句にあわせてそれらを一般に展示公開し、伝統的な日本の人形文化を知る機会とする。	
15	特集陳列	高野コレクション―浅井忠の日本風景	16.3.2～3.31	「近代洋画に関する研究-浅井忠」	昭和59年(1984)に寄贈された高野時次氏収集の浅井忠作品73点のうち、日本の風景を描いた水彩画19点を展示。渡欧前の30代の作品4点と、帰国後に全国各地を旅して描いた晩年の15点をを比較し、画風の変遷を提示した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	江戸の医学書	16.3.9～4.18	「日本医学関係資料の研究」	江戸時代の庶民は、日常的に煎じ薬を飲み、灸をすえるなど、病気の予防を心がけていた。病気の治療や養生を目的とした灸も、近年、その効用が見直されている。人々が愛読した医学書、ツボを学ぶための銅人形(経絡人形)、西洋医学の影響を受けた人体解剖模型などを紹介し、予防医学のあり方を示した。	
15	特集陳列	大航海時代のキリシタン遺物	16.3.9～5.9	「キリシタン関係遺品の研究」	15世紀の終わりごろから16世紀にかけて、ポルトガルとスペインは新天地を求めて、未知の世界への航海に出かけた。ポルトガル船によってもたらされ、またわが国で製作されたキリシタン遺物を紹介し、東西文化の交流の諸相を紹介した。	
16	特別展	空海と高野山	16.4.6～5.16	・メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金による助成研究「八・九世紀における中国系木彫像の再検討」平成11年度研究代表者 岩佐光晴 ・科学研究費補助金「日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」平成11～14年度 研究代表者 金子啓明 ・展覧会のための事前調査	修理中に新発見された「毘沙門天立像」の胎内仏の精細な調査の結果、制作時期が特定されたこと、事前調査によって発見された「秘密儀式灌頂法具」1式の意義が明確化されたこと、高麗の装飾経としては世界で2番目に古い年記を持つ「法華経」8巻を発見し、初めて公開したことなど、調査に基づく新発見、新資料を随所に反映し、従来この方面では見られなかったような意義深い内容の展覧会を実現した。	NHK、NHKプロモーション、高野山真言宗総本山金剛峯寺、財団法人高野山文化財保存会
16	特別展	世紀の祭典 万国博覧会の美術	16.7.6～8.29	・『東京国立博物館百年史』『東京国立博物館百年史 資料編』の刊行 昭和48年 ・調査研究報告書『温知図録』の刊行 平成9年 ・『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真資料目録1-3』の刊行 平成11～13年	東京国立博物館では、設立時に万国博覧会と内国博覧会ときわめて深い関係にあり、これらの博覧会についての基礎的な研究を継続してきた。『東京国立博物館百年史』の研究は東京国立博物館自体の成り立ちを明らかにする中で、日本の博覧会への参加の状況について明らかにしていった。明治前期の輸出工芸振興策のひとつであった『温知図録』の制作にも東京国立博物館は大きく関与し、その膨大な資料を所蔵している。この展覧会では日本の国家政策としての工芸振興の実態を『温知図録』の研究成果により明らかにした。『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真資料目録1-3』刊行に代表される東京国立博物館所蔵古写真の研究により、明治期博覧会への出品作品の実態が明らかになり、それらをもとに、海外所在作品との同定も行われ、今回の展覧会では万国博覧会出品作品として位置づけて展示を行った。こうした文献的な研究とその当時に収集された内外の工芸品の研究によって明らかになったことを、この展覧会では作品を通して多くの人に示すことが可能となった。	NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特別展	中国国宝展	16.9.28～11.28	<p>展覧会のための事前調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の15の省・特別市に及ぶ中国歴代文化財の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教美術と新発見の考古という二つのテーマを設定し、入念な事前調査を行ったことにより、従来紹介されていなかった数多くの作品を見出し、展示・公開することができた。 ・東洋考古学と東洋美術史の日ごろの調査研究の成果を活かして新石器時代から北宋時代までの代表的な考古遺物と仏教美術の優品を選定した。 ・中国における初期的な仏教関連作品をはじめてまとめて展示し、その意義を明らかにした。 	朝日新聞社
16	特別展	金堂平成大修理記念 唐招提寺展 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏	17.1.12～3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・保存科学に基く文化財輸送の実践的研究 ・展覧会のための事前調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における保存科学の研究を先導する神庭信幸研究員をチーフとして、保存科学の最新技術を駆使しながら、事前に盧遮那仏(本尊)の巨像を安全に輸送するための調査研究を積み重ね、さらに大規模な走行実験を実施することにより、文化財搬送に関する科学的なデータを新たに多数収集した。その成果に基き、奈良時代の創建以来はじめて盧遮那仏を寺外に移送し、無事展示することに成功した。 ・綿密な事前調査を重ねることにより、寺院の堂内を再現的にイメージできるような効果的な陳列方法や照明方法を考案し、これまで見られなかったような画期的な展示空間を作り上げることができた。 	唐招提寺、TBS、日本経済新聞社
16		本館リニューアルオープン	16.9.1～	<p>館蔵品及び寄託作品の調査研究ならびに日本美術史の研究</p>	<p>当館が持つ所蔵品・寄託品を通じて、日本美術の時代別展示をもう一步推し進め、日本美術の特質に照準を合わせた時代ごとのテーマを設け、日本美術の流れがよりわかりやすくするための展示である。東京国立博物館の所蔵品の特性と日本美術の流れを理解しなければならない仕事で、長年の分野別の研究と展示を担当した研究員によって、初めて可能になった陳列体系の変更である。</p>	
16	特別公開	中宮寺 国宝・菩薩半跏像	17.3.8～4.17	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金「日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」平成11～14年度 研究代表者 金子啓明 ・科学研究費補助金「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究—韓国所在の彫刻・工芸作品を中心に—」平成14～15年度 研究代表者 金子啓明 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古代の木彫像に使用された樹種とその持つ意義を幅広く調査研究し、クスノキ製の中宮寺国宝菩薩半跏像の持つ重要性を提示した。 ・東アジア的な視点から行ってきた古代日本文化に関する研究成果にもとづき、日本古代彫刻の傑作の一つである中宮寺像を通じて、日本古代文化の特色と意義を提示した。 	
16	特集陳列	密教法具	16.3.30～6.30	<p>国立歴史民俗学博物館機関研究「考古学資料の情報集成的研究」研究代表者 村木二郎</p>	<p>標記研究の研究分担者として、経塚出土の金工品に関するデータ収集と調査研究を行なった。本展示はその成果に基づき、当館所蔵の密教法具の魅力わが国の仏教工芸史の中でわかりやすく解説し展示した。</p>	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	世界の中の江戸	16.10.13～11.21	「江戸幕府旧蔵資料の研究」	近世の日本が、国をとどしていた状態は「鎖国」とよばれ、さまざまな評価がある。その外交政策は、東アジア諸国とのネットワークを考える上で重要で、国内の政治経済などの各方面にも大きな影響を与えた。当時の日本人の外国に対する認識を、江戸時代の国際交流に関する資料から検討した。	
16	特集陳列	「保存と修復」	16.10.26～12.5	澤田むつ代「法隆寺献納宝物 広東綾幡 平成十五年・十六年度の修理で判明した新知見」(『MUSEUM』597号、2005年8月)、『ミュージアムサイエンス2004 東京国立博物館コレクションの『平成15年度 東京国立博物館文化財修理報告Ⅲ』(東京国立博物館、2005年)	東博が行っている100件あまりの本格修理(解体を含むもの)から4分の1ほどを選び、修理の方針、方法などの詳細な解説をつけて展示、公開した。博物館の活動のひとつとしての収蔵品の保存修復についてスポットをあて、どのような理念のもとで修理を行っているかなどを紹介した。なお、16年度は「紙」をテーマとし、さまざまな紙のサンプルおよび修理品の紙質検査結果などを展示した。	
16	特集陳列	中国書画精華	16.10.5～11.28	中国絵画・書跡の研究	2003年度新収品で東山御物の由緒をもつ重文「雪景山水図」伝梁楷筆を、梁楷の重文「出山釈迦図」・国宝「雪景山水図」とともに3幅揃いで展示した。28年ぶりの公開になるこの3幅に合わせて、梁楷の水墨画を代表する重文「李白吟行図」・重文「六祖截竹図」を加えて、梁楷の画業を理解しやくいように構成した。中国書画史の第一人者湊・富田が担当。	
16	特集陳列	特集陳列「中国絵画精華」(後期)	16.11.2～11.28	中国絵画・書跡の研究	日本に伝来された中国書画の中には、本国ではすでに見ることのできない貴重な優品が少ない。本展では国内外で評価の定まった唐・宋・元の書画を中心に構成し、中国書画史に重要な位置を占める優品の伝来や特徴について、先行研究をふまえて分かりやすく紹介した。	
16	特集陳列	慈雲	16.11.2～12.12	高貴寺よりの寄託品の調査研究	高貴寺よりの寄託品の調査研究に基づいて、慈雲没後200年を記念しての特集陳列を開催した。慈雲のサンスクリット、禅学など幅広い宗教学の研鑽の様子を遺品を通じて紹介した。近年の江戸時代の唐様の書研究に先鞭をつけた島谷が担当。	
16	特集陳列	歌舞伎衣裳	16.11.2～12.26	小山弓弦葉「奈良金春座伝来能装束の調査から—能装束の形態に見る芸能の特質—」(『文化資源学』2)	東京国立博物館に所蔵される能面・能装束コレクションの核は金春座伝来能装束および毛利家伝来能装束である。その2つのコレクションに共通する特色を生かして、演目にあわせた展示を企画し、能に関わる美術を、文化史的・芸能史的に捉えた展示を行った。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	元禄時代と忠臣蔵	16.11.23～12.26	「江戸の生活と文化に関する研究」	元禄時代は、経済が発展して世の中が落ち着き、町人が文化の主な担い手となって、多くの学者や文化人を輩出した。なぜ忠臣蔵は、歌舞伎や物語の題材となって長く語り継がれてきたのか、赤穂浪士を生んだ時代背景や、事件に対する諸人の評判などを紹介し、その理由を検討した。	
16	特集陳列	装飾須恵器の世界	16.12.14～17.1.30	館蔵品古墳時代資料の調査・研究	本館には古墳時代の装飾須恵器が極めて多量に収蔵されている。それらを一同に介し、展示を行う機会が少ないことから、特集陳列としてさまざまな形の装飾須恵器を展示した。これには、平成16年度考古相互貸借事業で借用した装飾須恵器も展示した。	
16	特集陳列	内藤雋輔氏コレクションの朝鮮瓦磚	16.3.16～9.12	館蔵品の調査研究	東京国立博物館東洋館では朝鮮半島発見の瓦を常時展示しながら研究を蓄積している。その成果をもとに、平成15年度に寄贈を受けた、内藤雋輔氏収集の瓦磚43件が朝鮮半島の古代瓦を概観する好資料であることを明らかにした。	
16	特集陳列	拓本-三館同時開催による名品展-	16.3.30～6.6	中国の拓本研究	特定領域研究での調査研究に基づき、その成果を公開すべく、書道博物館・三井文庫と当館の収蔵する拓本を同時に公開した。これによって、各館所蔵の名品だけでなく、共通の類品を比較する鑑賞が可能となった。	
16	特集陳列	江戸の医学書	16.3.9～4.11	「日本医学関係資料の研究」	江戸時代の庶民は、日常的に煎じ薬を飲み、灸をすえるなど、病気の予防を心がけていた。病気の治療や養生を目的とした灸も、近年、その効用が見直されている。人々が愛読した医学書、ツボを学ぶための銅人形(経絡人形)、西洋医学の影響を受けた人体解剖模型などを紹介し、予防医学のあり方を示した。	
16	特集陳列	大航海時代のキリシタン遺物	16.3.9～5.9	「キリシタン関係遺品の研究」	15世紀の終わりごろから16世紀にかけて、ポルトガルとスペインは新天地を求めて、未知の世界への航海に出かけた。ポルトガル船によってもたらされ、またわが国で製作されたキリシタン遺物を紹介し、東西文化の交流の諸相を紹介した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	ものがたりの絵画	16.4.20～5.30	「日本絵画における物語絵の研究」	日本絵画において物語を絵画化した作品は数多く、大きなジャンルを形成している。最も多いのが『源氏物語』を主題とした「源氏絵」であろう。平成11年に行った「近世の源氏絵」を踏まえ、近世における「源氏絵」以外の物語、たとえば、『伊勢物語』『西行物語』『平家物語』などの絵画化の実態を屏風3点を含む12点の作品によって明らかにした。絵巻研究の第一人者である松原が担当した。	
16	特集陳列	高野山天野社伝来の仮面と装束	16.4.6～5.16	館所蔵の模写・模本類による原品復元に関する調査研究	特別展「空海と高野山」開催に合わせて、高野山の鎮守社である天野社(現在の丹生都比売神社)に伝来した舞楽面・行道面や楽器など約20点を展示して、高野山における信仰の多様性を示した。	
16	特集陳列	桃山の「能書人々」	16.5.11～6.30	「館蔵品・寄託品の調査研究」	館蔵品・寄託品の桃山時代の書跡の調査研究に基づき寛永の三筆を中心とする遺品での陳列である。	
16	特集陳列	「古筆を楽しむ」	16.5.13～6.22	館蔵品・寄託品の古筆作品の調査研究 「定信様」の研究(島谷弘幸著『古筆学拾穂抄』木耳社刊) 『日本名筆選』42「秋萩帖」 (2004.1、二玄社刊)などの研究	館蔵品・寄託品の古筆作品の調査研究に基づいて、平安朝の古筆の名品を、仮名の成立から展開、さらに世尊寺家における書風の変遷などを、作品を通じてわかりやすく展示した。長年の古筆学研究を踏まえて島谷が担当した。	
16	特集陳列	装い	16.6.1～6.30	小山弓弦葉「初期唐織の編年に関する考察—金春座伝来能装束を中心に—」(『MUSEUM』585) 小山弓弦葉「奈良金春座伝来能装束の調査から—能装束の形態に見る芸能の特質—」(『文化資源学』2)	東京国立博物館の能装束コレクションの核ともいえる奈良金春座伝来能装束(旧諦楽舎所蔵)には、日本染織としては珍しく、安土桃山時代の作例が数多く伝存する。金春座の歴史と能装束の形態的特徴とを相関性を明らかにする研究を試み、その成果の一部を本陳列で公開した。	
16	特集陳列	定静堂コレクションの中国書画	16.6.8～7.4	中国絵画・書跡の研究	昭和58年、平成2年、平成13年の3次にわたって寄贈された林宗毅氏の定静堂コレクションを調査研究した成果として、その代表的作品を平成14年度につづいて公開した寄贈者顕彰の特集展示。	
16	特集陳列	小林斗童氏寄贈中国印譜	16.7.6～8.1	東洋書跡史研究	小林氏のコレクションは、原鈐本や編者の自筆書き付けのある稀購本が多い、きわめて良質なコレクションといえることができる。250点にのぼるこれらの印譜を、種類別・年代別に整理し、その中でも貴重な作例を選んで、印譜の歴史を概観するように展示・紹介した。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	広開土王碑	16.8.3~10.3	谷豊信「四・五世紀の高句麗瓦に関する若干の考察」、『東京大学東洋文化研究所紀要』、谷豊信「平壤土城里発見の古式の高句麗瓦について」『東京大学東洋文化研究所紀要』	3年連続の特集陳列。今回は、広開土王碑拓本に関する解説をいっそう充実させたほか、谷が10年以上続けてきた高句麗瓦研究の成果を盛り込み、東京大学文学部ほかから広開土王碑周辺で発見された瓦などの考古資料の展示を充実させ、広開土王碑の時代の文化をも示す展示とした。	
16	特集陳列	田中幸穂氏寄贈 田中房種博物図譜資料	16.9.1~10.11	東京国立博物館所蔵博物図譜データベース(科学研究費補助金(研究成果公開促進費)研究代表者 高橋祐次)	平成16年に田中幸穂氏から寄贈を受けた田中房種(1830-1913)収集の博物図譜資料1,545点の1点ずつの調査に基き、名称・形状・法量などの一覧を作成し、主な作品の特集陳列をおこなった。あわせて当館草創期の職員の一人名であった田中房種の業績を明らかにして『田中幸穂氏寄贈 博物図譜』の図録を刊行した。	
16	特集陳列	「銅鐸の絵画」	16.9.1~10.11	銅鐸の研究	当館が所蔵する絵画が表現された銅鐸を調査研究し、銅鐸絵画の変遷を具体的に展示に示し、時期による表現方法の違いとそれぞれの画題の持つ意味についても考えを提示した。また日本絵画の原点としての銅鐸絵画の位置づけを明確にした。銅鐸研究の第一人者井上が担当。	
16	特集陳列	金春座伝来能装束	16.9.1~10.31	「女狂言師・坂東美津江所用歌舞伎衣装の研究」	江戸時代後期、江戸城や江戸屋敷の武家女性の前で演じるために、女性による歌舞伎が演じられた。その代表的な狂言師の1人である坂東美津江が使用した歌舞伎衣裳が東京国立博物館に一括して寄贈されている。東京国立博物館の本館二階で行っている平常展示「日本美術の流れ」では、第9室を「能と歌舞伎」とし、芸能をテーマとした展示を行っている。そこでは舞楽、伎楽、能、狂言、歌舞伎といった芸能衣装を中心とした展示を行っており、その中で特集として研究の成果に基づいた展示を行っている。そこでは列品解説などにより、直接作品を前にして研究成果の発表も行うことができ、今後も研究成果をより広い層に発信することが可能となっている。	
16	特集陳列	中世の陶磁	16.9.1~12.12	「中世陶磁の研究」	中世陶磁の展開について須恵器系、灰釉陶器系という系譜からの研究が行われており、それを東博所蔵作品によって展示による示した。	
16	特集陳列	旅と温泉	17.1.2~2.13	「江戸の生活と文化に関する研究」	江戸時代の庶民は生活が苦しく、長旅に出る余裕などがなかったと考えられがちであるが、伊勢参りは盛況で、働く女性たちの旅行の増加や、温泉も旅の楽しみの一つであったことが知られる。各地の名物や、旅の注意事項などの情報を収録した案内書などから、江戸時代の旅の様相を伝えた。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	能面 能装束-能『高砂』	17.1.2～2.27	「舞楽装束の歴史的研究」	東京国立博物館が所蔵する和歌山・天野社伝来舞楽装束の一部は、墨書銘などから、希少な室町時代の伝存例である。また、江戸時代から明治期にかけて製作された舞楽装束が多数所蔵されている。それらの中には演目が特定される一具も含まれることから、舞台を想定した展示を研究し、年に一度、所蔵品の特色を生かしたテーマ展示を行う。	
16	特集陳列	国宝七弦琴と古代の楽器	17.1.2～2.27	館蔵品の調査研究	法隆寺献納宝物の七弦琴は、724年中国四川省で作られたもので、日本に伝わる最古の琴である。献納宝物にはこのほか、伎楽に用いられた奈良時代の鼓胴を収蔵している。奈良時代にさかのぼる楽器は、正倉院と献納宝物だけであり、これらの楽器を展示して、古代の音楽について理解を深めてもらうこととした。	
16	特集陳列	国宝聖徳太子絵伝と細字法華経	17.2.1～2.27	館蔵品の調査研究	聖徳太子の事歴を10面の障子絵で表した法隆寺献納宝物の聖徳太子絵伝は最古の太子絵伝である。また細字法華経は、694年に書写され、則天武后が制定した則天文字が見られることが判明している。この法華経は遣隋使小野妹子が中国から請来したと伝えており、両者を合わせて公開し、妹子に衡山寺経の探求を命じた太子の場面を示して、聖徳太子の事跡を具体的に紹介することとした。	
16	特集陳列	雛道具	17.2.15～3.27	「日本人形文化研究」	歴史資料として収蔵され、近年まで展示公開されることのなかった、東京国立博物館の人形コレクションの中には、江戸時代後期に流行した様式の雛人形や京人形の優品がある。毎年桃の節句にあわせてそれらを一般に展示公開し、伝統的な日本の人形文化を知る機会とする。	
16	特集陳列	健康と医学	17.2.15～3.27	「日本医学関係資料の研究」	江戸時代の人々は、医師の診察を受け、様々な養生書を読んでいた。養生書は庶民に親しみやすい和歌、紀行文、物語の形式のものが多く、もともと「養生」とは、不老長寿のための技法や、人間としての生き方を考える思想などを示す。江戸時代の養生書とおして、江戸時代の健康に対する考え方を明らかにした。	
16	特集陳列	高野コレクションー浅井忠の油彩画	17.2.8～3.21	「近代洋画に関する研究-浅井忠」	昭和59年(1984)に寄贈された高野時次氏収集の浅井忠作品73点のうち油彩画5点を選び、滞欧作2点と日本での作品3点を比較。浅井が油彩画でいかにして日本的なものを描こうとしたかをさぐった。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	相関する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	森鷗外と帝室博物館	17.3.29～5.8	「帝室博物館資料と森鷗外の研究」	森鷗外(1862～1922)は、帝室博物館総長兼図書頭の在職中、博物館の蔵書1冊ごとの解題と、その著者略伝を執筆した。内容から鷗外の広く深い学識が知られる。その関連資料、総長の活動を伝える資料、医師として記した『芸用解剖学骨論草稿』など、鷗外が残した多大な功績を紹介した。	
16	特集陳列	兜のながれ-古墳から江戸まで	17.3.29～7.3	甲冑の研究	担当者の甲冑の調査・研究、考古の甲冑研究者との共同研究の成果をふまえて、古墳時代から江戸時代にいたる兜の変遷を、文化庁の重要文化財・寄託品を含む20点から構成した。	
16	特集陳列	狩猟と漁撈	17.3.8～5.29	アイヌ民族資料の調査研究	本館に収蔵されているアイヌ民族資料のなかで、狩猟と漁撈にちなんだ作品を選び展示をおこなった。アイヌ民族はさまざまな形の道具を使用していたことを示すとともに、絵画資料のパネルを多く用いることで使用方法についても注目した。	